

長谷川 望 牧師

- \* 「マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。」 (マタイ 1 : 21 :)  
クリスマスは救い主イエス・キリストのご降誕を祝うこと。「救い」とは、宗教的には人間が持っている基本的な、内面的な性質からの解放である。人間には誰でも「自我」や「欲望」があり、それが生きる基になっているといえるが、反面その虜になる。仏教では「煩惱」と呼び、神道では「穢れ」と呼んでいる。聖書はそれを「罪」と呼んでいる。これらの他の宗教と違うのは、「罪」は創造主である神との関係において起こっていることである。神との関係が切れてしまっているのが「罪」である。
- \* 神の存在はとてつもなく大きく、私たちはその神の前では何もできない。それゆえ、「罪」は自分でいくら努力しても、決して取り除いたり、解決することができない。そこで、おぼれそうになっている私たちに神ご自身が私たちに「助け舟」を出してくださった。それが御子イエスである。この方を信じるなら、罪は残るけれども、無罪としてあげようといわれる。そうすれば神との関係が再びつながり、神の愛を一杯受けて神のいのちをいただくことができるのである。
- \* 2000 年前に起こった主の降誕は事実である。十字架も復活も聖書は事実に基づいて書かれている。イエスは死ぬために生まれて来られた。イエスの十字架によって私たちの罪が赦されるという「贖い」の考えは他の宗教にない。私たちそれを信じるだけで罪が赦されるという恵みをそのまま受け入れるだけでよい。
- \* 救い主の降誕はその 700 年以上前から預言されていた。「ご自分の民」とは、先ず、イスラエルの民を指す。神が選ばれた民が神から離れ多くの罪を犯し続けてきた。彼らに救いが必要である。しかし、イエス・キリストの民とは一民族にとどまらない。「異邦人を照らす光」、私たち地球上のすべての人の罪の解決のために来られたのである。「罪から救われる」ためである。